

富士石油株式会社(5017) 2021年度決算説明会 質疑応答要旨

※この資料には将来見通し等に関する記述が含まれています。資料末尾に記載の注意事項をご覧ください。

質問1

軽油等の製品輸出について

回答1

ここ近年の製品輸出の数量は100万キロリットル程度です。
2022年度の計画上はこれよりも多く想定していますが、
国内製油所の稼働状況やトラブル等によっては内需の増加にもなるので、
実行上はよく分からないところもございます。

仕向け先については、引き取り側のご希望を最優先としておりまして、
バランス上の余剰については自社の輸出にも回していくということになります。

2022年度の市況については昨年度よりは若干高めの想定をしています。
足もとは非常に良いのでそれよりは堅めとなっています。

質問2

2022年度業績見通しの在庫影響除きの真水の営業利益と 中期事業計画最終年度の2024年度の同営業利益の差について

回答2

2022年度は前期が大定修で70億円悪化要因がありましたが、
それが解消されて戻るといったことがあります。
また、中期事業計画の2024年度の前提が
ドバイ原油1バレル当たり60ドル、為替レートが1ドル105円であり、
2022年度の見通しの前提の80ドル、120円と大きく差がありますので、
ピッチとか自家燃料コストにも作用することにも留意をお願いいたします。
また、コスト削減策について社内横断的な取り組みも行っており、
その成果もご期待いただきたいと思います。

質問3

株主還元について

回答3

私どもの基本方針としましては、安定配当を目標としておりました。安定的に今期も10円としており、そういったことを継続していきたいと考えております

今後の大きな投資の新事業を行うためにも、財務体質の完全改善を1つの目標としております。過去には最大15円の配当をさせていただいたときもございました。そのときの財務体質に近づくべく、コスト削減も含めまして、第3次中期事業計画を予定通り完遂していく所存です。

質問4

ARAMO SHIPPING について

回答4

ARAMO SHIPPING の海運事業は、当社の隣接事業として位置づけられますところ、VLCC 1 隻、VLGC 1 隻の計 2 隻の船隊において顧客からの一定の評価を受けており、引き合いも良好です。

海運事業の特性上、損益の振れ幅が若干大きいのですが、過去の損益推移からしても着実に利益を計上しており、当社の利益にも非常に貢献をしております。

ARAMO SHIPPING の事業は当社においても一定の知見がある事業であり、今後の布石としても意義があるものと捉えています。

共同出資会社である商船三井さんとも協議をしまして、燃料は重油とLPGの二元で、積荷としてLPGないしアンモニアを運搬できる船を

2024年に建造する予定です。

2022年度のARAMO SHIPPINGの業績の見通しですが、本年3月末に船を1隻売却したことから売却益が発生する（注）ため、持分法投資利益による当社連結決算への貢献度は昨年度よりも高くなる見込みです。

（注）ARAMO SHIPPING は12月決算会社のため、当社の連結決算には2022年度に反映されます

ただし、本業の海運市況については、引き続き低迷するだろうという見込みしか、今のところはありませんので、ちょっと低いだらうという見通しです。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。